

	神戸大学 人文科学分野
学部等の教育研究 組織の名称	文学部（第1年次：115名） 人文学研究科（M：50名、D：20名）
沿 革	大正12（1923）年 姫路高等学校設置 昭和15（1940）年 神戸商業大学予科設置 昭和19（1944）年 神戸商業大学予科を神戸経済大学予科に改称 昭和24（1949）年 神戸大学文理学部文科設置 昭和29（1954）年 文理学部を改組し、文学部を設置 昭和43（1968）年 文学研究科設置 昭和55（1980）年 文化学研究科設置 平成19（2007）年 文学研究科及び文化学研究科を改組し、人文学研究科 を設置
設置目的等	<p>昭和24（1949）年に、日本の文化的水準の立ち後れを回復し、世界的な文化水準に達するための市民の育成を目的として、文理学部文科が設置された。</p> <p>昭和29（1954）年に、学術の研究と学生の教育に一段の努力をし、もって文化の向上に貢献することを目的として、文理学部を改組し、文学部と理理学部が設置された。</p> <p>昭和43（1968）年に、学部における一般的・専門的教養の基礎の上に、広い視野に立って清深な学識を修め、哲学、史学及び文学における理論と応用の研究能力を養うことを目的として、文学研究科が設置された。</p> <p>昭和55（1980）年に、文化に関する高次の広い識見と展望をもって、流動する様々な社会的・文化的諸課題に柔軟に対応しうる能力を身に付けた人材を育成することを目的として、文化学研究科が設置された。</p> <p>平成19（2007）年に、人文学的素養に基づき現代社会の要請に応えうる人材を養成することを目的として、文学研究科及び文化学研究科を改組し、人文学研究科を設置した。</p>
強みや特色、 社会的な役割	<p><b>【総論】</b></p> <p>神戸大学における人文学分野においては、真理の探究を図るとともに、我が国における人文学分野の普遍的役割を果たすべく、教育研究を実施してきた。</p> <p>引き続き、上記の役割を果たしながら、教育及び研究において明らかにされる強み・特色・役割等により、学内における中長期的な教育研究</p>

組織の在り方を速やかに検討の上、実行に移す。

## 【教育】

### (学部)

- 人文学等の学問分野の教育研究を通じて、人文学の幅広い知識と深い洞察力、古典を通じた人類共通の問題・課題の解決力及び社会的対話を実践する能力を有し、広く社会で活躍できる人材を養成する。
- このため、専修ごとの体系的なカリキュラムを設定している。さらに、例えば「神戸オックスフォード日本学プログラム」に学部学生がチューターとして参加し、日本人学生側の異文化コミュニケーション能力の向上に取り組んでいる。また、20名程度の学生をオックスフォード大学（イギリス）へ派遣し、グローバルな学士課程教育を双方向に展開している。
- これらの取組を通じて、卒業生は人文学の幅広い知識と深い洞察力を基礎とする思考様式を身につけ、大学院に進学しなかった卒業生のうち、最近5年間においても3本の論文が *Evolution and Human Behavior* や *Neuropsychologia* などの査読付き学術雑誌に掲載されている。
- 今後、卒業時に必要とされる資質や能力を可視化しつつ体系的な教育課程を編成するとともに、ラーニング・コモンズの活用による学生の能動的学習を促す教育の実施や組織的な教育体制等を整備すること、また、これらの取組の実施だけではなく、可視化した資質や能力に応じた取組の成果や効果等を適切に把握していくことにより、学士課程教育の質的転換に取り組む。

### (大学院)

- 人文学の高い専門性を追求すると同時に、総合性を高めることによって、人文学の古典的な役割を継承しながら、現代社会の課題にも対応できる高度専門職業人・研究者を養成する。
- このため、修士論文・博士論文の準備期間に定期的に計画書の作成、報告会での発表等を学生に課す「学修プロセスフロー」を設定しつつ、各学生に対して、3名の教員（うち1名は必ず他専攻の教員）が指導にあたることで学域横断的な教育を実施している。  
また、近年はグローバル化を目的として、学生を組織的に海外へ派遣し、平成24年度では30人を派遣している。
- 今後、日本語日本文化教育分野の指導者を育成するためのインターシップの拡充を図るなど、社会人、留学生を含め、時代の動向や社会構造の変化に的確に応え、課程制大学院制度の趣旨に沿った教育課程と指導体制を充実・強化する。また、海外の大学との連携を通じ、人文科学分野の教育の国際通用性を確保する。

#### 【研究】

- 神戸という地域の高い開放性・国際性という特質を念頭に、人や文化の交流、対立・止揚の中に新しい文化創造の可能性を見出す研究を進めている。特に東アジアを中心とした文化接触、地域社会に関する研究や、欧米と日本の関係に関する研究等の分野における研究実績をいかして、哲学・思想、言語・文学、歴史・地理、芸術など多くの分野を包括する共同研究等を実施している。
- これらの取組を通じて、第一次世界大戦の研究が深まり、オーストリア・ハンガリー、ドイツと日本との文化接触の研究成果を海外の公文書館等で展示するなど、文化の理解や創造に貢献している。
- 今後、文化交流研究等の成果をいかし、各国の日本学プログラムと連携した日本文化の研究をはじめとする人文学的研究、そして、その成果の国際的な発信を行うことなどを組織的に推進して、我が国の社会の課題解決・文化の発展をけん引するとともに、その成果を国際的に広く発信する。

#### 【その他】

- 阪神・淡路大震災における知見をいかし、地震等大規模災害時における地域歴史遺産の保存に関する研究拠点としての役割を果たしている。  
また、災害時のみならず日常時における地域社会における歴史文化の形成支援等の取組を行っている。
- 全学的な機能強化を図る観点から、18歳人口の動態や社会ニーズを踏まえつつ、学部・大学院の教育課程及び組織のあり方、規模等の見直しに取り組む。